

殺虫剤**茶のナガチャコガネ防除に****スミチオン®**

スミチオンは住友化学(株)の登録商標です。

乳剤70

成虫



幼虫



ナガチャコガネ成虫に被害を受けた更新茶園



ナガチャコガネの成虫による被害を受けていない更新茶園

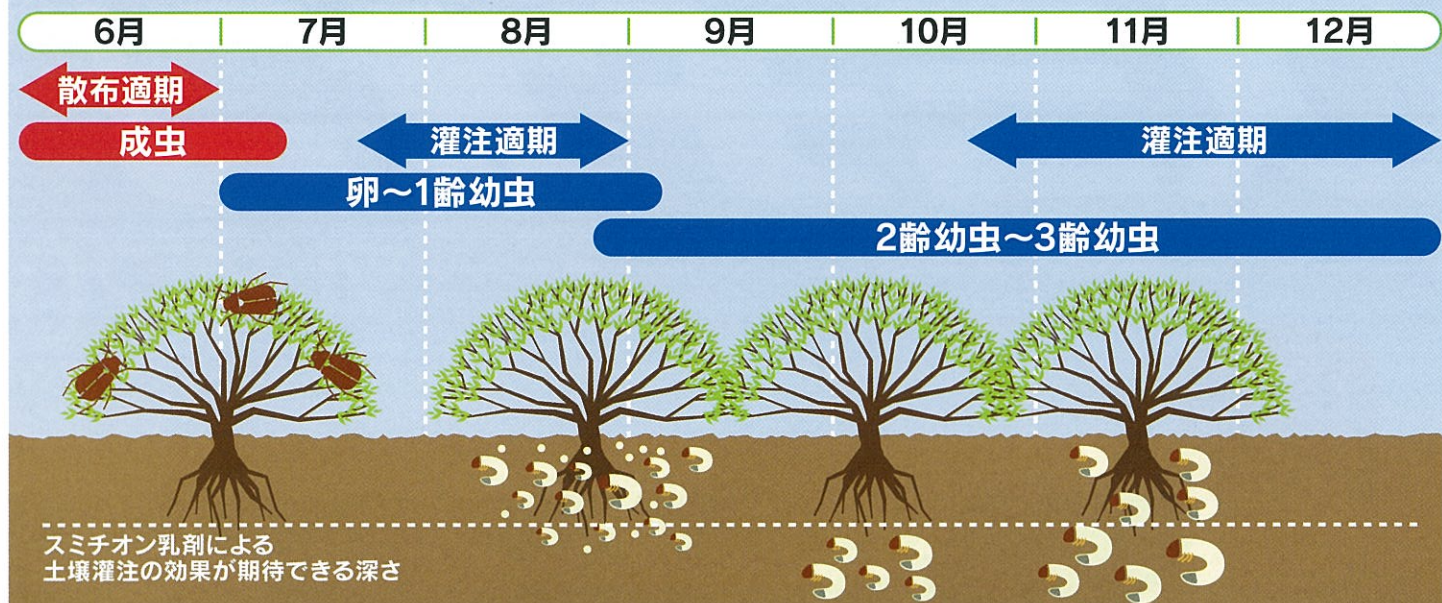
(写真提供: 静岡県農林技術研究所茶業センター)

〈適用害虫と使用方法〉

2019年4月現在の登録内容

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む 農薬の総使用回数
茶	ナガチャコガネ幼虫	2000倍～ 4000倍	5ℓ/㎡	摘採90日前まで	1回	土壌灌注	1回
	コカクモンハマキ ツマグロアオカスミカメ ミノガ類	1000倍	200～400ℓ /10a	摘採21日前まで		散布	
	ナガチャコガネ成虫						

ナガチャコガネの一生



- ①ナガチャコガネは、年1回発生します。例年6月頃に成虫になり、地表に現れます。
- ②成虫の寿命はおよそ3週間程度で、その間に交尾を行い、雌が地中に潜り産卵をします。
- ③幼虫は2回脱皮を行い10月頃に3齢幼虫となり、その状態で越冬します。
- ④年を越した幼虫は5月頃に蛹となり、6月に成虫として再び地表に現れます。

成虫防除(散布)について

- 茶期ごとの使用回数は1回となりますので、使用回数にご注意ください。
(散布・灌注をあわせて1回の使用となります。更新茶園の場合は次回の刈り取りまでの使用回数です。)
- 散布適期は成虫が発生する6月上旬～下旬です。
- 更新茶園では新葉や新芽を好んで食害し、生育阻害を引き起こします。新葉や新芽は特に丁寧に散布しましょう。
- 成虫を防除することにより、根に被害を与える幼虫の密度も低減できます。



幼虫防除(灌注)について

- 薬液が土壌中の幼虫に届くよう、株元から雨落ち部にしっかりと灌注してください。
- 薬液が浸透するよう土壌が湿った状態で灌注してください。(乾燥時は灌注しない)



⚠️<使用上の注意事項>

- ・使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- ・ボルドー液と混用する場合は散布直前に、できるだけ早く使用してください。ただし、その他のアルカリ性の強い農薬との混用はさけてください。
- ・ツマグロアオカスミカメに対しては新芽の萌芽期から1～2葉期の頃に散布してください。
- ・ナガチャコガネ(幼虫)の防除に使用する場合、使用時期に留意し、被害発生部及びその周辺に所定量を灌注してください。なお、初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- ・あぶらな科作物には葉害を生じるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布してください。
- ・蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- ・ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意してください。
 - ①ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにしてください。
 - ②関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行なわれているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めてください。

- ・本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないよう注意してください。
- ・誤飲などのないように注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出さず、直ちに医師の手当を受けてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
- ・本剤の解毒剤としては硫酸アトロピン製剤及びPAM製剤が有効であると報告されています。
- ・本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。
- ・使用の際には農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗顔・うがいをするとともに衣服を交換してください。
- ・かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- ・水産動植物(魚類、甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- ・危険物第五類に属するので火気および衝撃には十分注意してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●空袋・空容器は園場等に放置せず適切に処理してください。

31H4D19S39:OG

2019年4月作成(小城プロデュース)

